

鼓童文化財団の人材育成

くらす・まなぶ・つくる ～2022年11月～

豊かな自然に囲まれた研修所で共同生活を行い、切磋琢磨していく「太鼓芸能集団 鼓童」メンバー養成コースの研修生。
来年1月、2年生は研修を修了し、準メンバーへの選考の時を迎えます。
また1年生は進級選考が待っています。
悩み、迷いながらも、夢に向かって打ち込んでいく9名の想いをぜひご覧ください。



研修所の四季

くらし、農作業、祭りなどを通じ、季節を肌で感じながら過ごす
研修生活の、ごく一部をご紹介します。

春

芽吹きとともに1年生が入所し、冬を越した研修所は一気に賑やかになります。
生活のリズムや、ものごとを学ぶ姿勢を身につけていく大事な時期です。
畔塗り、代かき、田植えなど、農業はできるだけ機械を使わず、自分達の手で行います。

- ① 入所式
- ② 田植え
- ③ 研修所のある柿野浦集落の祭り



①



②



③

夏

アース・セレブレーション(ESC)や小木祭りへの参加など、イベントに関わることの多い時期です。限られた時間の中で稽古に集中することが、秋以降の伸びにつながっていきます。

- ④ ESC (研修所紹介)
- ⑤ 小木港祭り (鬼剣舞の門付け)



⑤



④

秋

近隣の岩首(いわくび)集落の祭りに参加するため、神社で地元の方から13晩の鬼太鼓の稽古をつけていただきます。
交流学校公演などの実地研修や、稲刈りや柿の収穫作業もあり、慌ただしくも充実した日々を過ごします。

- ⑥ 稲刈り
- ⑦ 岩首の祭り



⑥



⑦

冬

最終発表会や修了式があり、総仕上げの時期です。1年生の進級選考、2年生の準メンバーへの選考もこの時期に行われます。それぞれが出された結果に向かい合い、そして自分に向かい合い、次への一歩を踏み出します。

- ⑧ 酒蔵で酒造りを体験
- ⑨ 修了式



⑧



⑨

二〇二二年 夏の体験入所

8月8日から10日の2泊3日で、「夏の体験入所」が行われました。

ここ2年ほどはコロナ禍の影響もありオンライン版での開催でしたが、今年は感染対策を行いながら現地で開催することができました。

高校1年生から社会人まで、北は北海道、南は福岡県と全国各地から15名が参加。朝の体操やランニング、農作業や掃除、食事など、研修生とともに生活をしながら研修所の日常を体験いただきます。

研修生が日々どんなことを感じているか、研修所へ来る前にどのようなことを身に付けたら良いか、たくさんの質問が出ていました。

実際に研修生から生の声を聞き、具体的に研修生活をイメージすることができたようです。



稽古場をぞうきんがけ



研修生が育てているお米の成長を見る

初日の夜は、研修生の稽古発表がありました。

まっすぐ見つめる参加者の眼差しに研修生も負けたくないくらい、気持ちを込めて精一杯の音を届けます。

2日目の午前中は、メンバーの見留知弘による研修生への稽古を見学。食い入るように集中して見学する姿が印象的でした。

午後は、見留知弘の太鼓ワークショップ。全員で汗びっしょりになるまで太鼓を打ち込みました。



そして最終日は、たたこう館や鼓童村の事務所や稽古場を見学。

稽古場ではECに向けた稽古が行われており、憧れのメンバーを目の前にした参加者の皆さんは少し緊張した様子も見えましたが、演奏に釘付けになっていました。

楽しい時間はあっという間に過ぎ、佐渡汽船にて解散。

「また入所試験の時に会おう!」という声も聞こえました。それぞれが自分の将来を見つめた2泊3日でした。

研修生も、自分の夢を改めて再確認できた時間だと感じています。

(報告: 赤澤京)





「太鼓芸能集団 鼓童」
メンバー養成コース

一年生

〈41期〉

- 1 研修所に来る前、何をしていたか
- 2 特技と苦手
- 3 研修所における自分(の役割、役どころ)
- 4 佐渡で見つけた宝物
- 5 自己紹介

尾崎 泰右

(おざき たいすけ)
22歳 岡山県笠岡市 出身

- 1 愛媛県の大学で経営学を学び、飲食店でアルバイトをしていました
- 2 【特技】どんな要望の料理でも対応できること
- 3 【苦手】自分を表現すること(克服します)
- 4 困った時の料理担当
- 5 鬼太鼓の師匠(佐藤保男さん)と応援してくださいの方々。

佐藤 樹

(さとう いつき)
22歳 神奈川県愛川町 出身

- 1 社会人で、主に光ケーブルの配線工事の仕事をしていました。
- 2 【特技】水泳、ピアノ(独学なので数曲だけ)
- 3 【苦手】勉強、うめ干し
- 4 田んぼ係。今年は豊作!!
- 5 星空と鬼太鼓。

中島 緋瞳

(なかじま ひとみ)
19歳 埼玉県川越市 出身

- 1 頑固で負けず嫌いな高校生。
- 2 【特技】余り食材で一品作り
- 3 【苦手】虫の羽音
- 4 食材料
- 5 はつきり見えるキレイな星空と、毎日が流星群かと思うほど流れる流れ星。

橋本 麻央

(はしもと まお)
19歳 東京都町田市 出身

- 1 高校の部活で和太鼓をやっていました。
- 2 【特技】フラダンス
- 3 【苦手】裁縫など手先で行う作業
- 4 普段は失敗しない所で失敗する人
- 5 ランニングコースから見ると景色と佐渡の人の方言。

増田 誠

(ますだ せい)
18歳 千葉県佐倉市 出身

- 1 和太鼓部に熱中しながら高校生活を送りつつ、アルバイトもしていました。
- 2 【特技】何となく、不思議な絵を描くこと
- 3 【苦手】勘で料理の味付けをすること
- 4 エンジン、末っ子
- 5 本当に金色に光って見えた、稲穂の海。

圓岡 瑞樹

(まるおか みずき)
19歳 東京都八王子市 出身

- 1 高校のあった埼玉の山奥を裸足で走りながら自然を感じていました。
- 2 【特技】魚捌き、自分の散髪、歩くこと
- 3 【苦手】廊下に落ちるカメムシは裸足の天敵です
- 4 足の速い体験入所生に対するゴリラ担当
- 5 祭り・佐渡で出あった鬼太鼓などの芸能に触れることで祭りが好きになりました。

勝部 しずく

(かつべ しずく)
19歳 北海道豊浦町 出身

- 1 12年間シユタイナー教育を受けたのち、1年間バイトをしていました。
- 2 【特技】お菓子作り。どこでも寝れること
- 3 【苦手】そこにあるリズムに乗ること
- 4 (最近愛着の湧いてきた)米・食材料
- 5 朝のランニングで出会う景色。





森田 蓮

瀬能 温大

二年生

〈40期〉

「自分」を出す。

もりた れん
森田 蓮

20歳 群馬県桐生市出身

佐渡に渡って知らない人だらけの中、人と関わる時に自分が「自分」を出せていない事を知った。変に人からの印象を気にしてしまう。それは舞台上でも同じだ。今年の九月に四十期二人で佐渡に住む人を対象に交流公演を行って、太鼓の演奏だけでなく自己紹介や、自分の事について話すなどトークもした。終わった後に、鼓童のメンバーの方に「自分を取り繕っている気がする、もつと素直な自分を出して欲しい」と指摘があった。お客さんに見ていただく立場だから二〇〇%のものを見せないといけないと思っていたが、自分の現状、今の精一杯を取り繕っていても何も伝わらない。人との関わりも、相手に自分を見せるから相手も受け入れてくれる。自分にとって舞台が今の「自分」を最大限に見せられる場所にしたい。



豆腐に納豆・ヨーグルト!! 研修生の体を構成する三大要素です!(通称:朝食セット)

太鼓に懸ける

せのう はると
瀬能 温大

19歳 神奈川県藤沢市出身

二年次になると人前で演奏する機会が増える。宿根木公演、EC、専門学生や中学生の前で演奏することもある。お客さんの年代や立場は様々だが、一つ言えるのは皆それぞれなりに懸命に生きていくということだ。私はそんな人たちに、自分が全力で、必死に太鼓を打つ姿を見せ、音を聞いてもらいたいと思う。

様々な人生がある中で、私は太鼓の道を選んだ。だから、私にとっては太鼓に全力で打ち込み続けることが自らの存在の証明だ。

私は、私の演奏を聞いて、お客さんに感動してもらいたいとは思わない。ただ自分の姿、音から何か前向きなエネルギーを感じてもらえるような演奏をしたい。

私は、懸命な人たちに共感してもらえようかな、奏者であり、人間でありたい。



「サンバの時間」で出会った、ブラジルの楽器パンデイロ。太鼓とはまた違う魅力!

研修所のカリキュラム

くらし



魚のさばき方

ものづくり



陶芸

トレーニング



坂道ダッシュ

身体基礎・ボディワーク



身体基礎(八段錦)



ボディワーク

地域との交流



近隣の中学校との交流会

茶道・能楽・講義



茶道



能楽



俳句(吟行)

実地研修



島内中学校での交流公演

太鼓・踊り・唄・笛の稽古



太鼓(屋台囃子)



踊り(鬼剣舞)



唄

様々な稽古・講義

様々な稽古や農作業やものづくり、そして共同生活。
1年目は表現のための土台づくり、2年目は実地研修などにより
実践的な力を養い、自分たちの心身を耕していきます。

二〇二二年 講師の先生方

(五〇音順・敬称略)

青柳洋子 「能」宝生流教授嘱託

赤塚五行 「俳句」新潟日報佐渡版
俳句選者

朝倉大輔 「能」シテ方 宝生流能楽師

石川義純 「津軽手踊り」宗家石川流師範

伊藤多喜雄 「唄」民謡歌手

岩崎ちひろ 「魚のさばき方」魚屋

小木さざ波会 「小木おけさ」

加藤健／加藤酒造店の皆様

「酒蔵見学・酒造り体験」
「金鶴」醸造元

金子竜太郎 「身体基礎」和太鼓奏者

狩野泰一 「篠笛」篠笛奏者

京矢彩希 「ボディワークトレーニング」
ピラティストトレーナー

金城光枝 「琉球舞踊」琉球舞踊家・
太圭流華の会師範

日下敬啓 「柿畑の作業」弘仁寺住職

葛原正巳 「陶芸」

野上結美 「ヴォイストレーニング」声楽家

野村和仁 「水口囃子」水口ばやし
水口囃舎代表

松田祐樹 「講義」佐渡の芸能研究者

桃井宗生 「茶道」裏千家学校茶道教授

柿野浦、岩首地区
ならびに佐渡の皆様

「研修生に伝えたいこと」

見留知弘



研修所の生活は、ある意味修行であり、必要最低限の物しか持たないことで、鼓童の理念である「くらす・まなぶ・つくる」を実行します。「ものを大切にすること」を一番最初に話をし、なぜ自分でバチを作るのか、自分に身体に合ったもの、こだわり、そして苦労して自分で削り出したバチには愛着が湧き、大切に、それが結果として自分の音を作ることに繋がって行くからです。もちろん全てに対して、大切にすることとは向かい合うこと。太鼓と向かい合えば、微妙な変化も感じ取れるようになります。

研修所での生活が、そのまま舞台に直結する。生活＝即舞台という言葉や、機会があるたびに話をし、歩き方ひとつひとつも、意識をすれば、それが自然と身につきますが、素の自分が出てしまうと舞台を壊します。研修所は根っここの部分で、土に隠れて見えませんが、舞台に立った時に、どんな花を咲かせるかは、研修所の生活(根)を充実してきたかで、それは結果として現れてしまいます。

研修所の期間で、土台をしっかりと作ってもらおうのが私の役割で、土台が弱ければ、上に乗るものも弱くなるので、まずは打ち続ける体力と、打つための基礎を約2年間かけて一緒に作ります。

年に4回ある発表会の段取りを組む際も、逆算でものを考えることを伝えていて、ゴールに行くためには、ゴールからものを見ることで、自分の動く動線など、見えてくるので、「逆算でものを考える」ということも伝えていきます。



阿部好江



私自身も柿野野浦の研修所で2年間を過ごしました。親しい友達や家族と離れて暮らす生活が初めてだった上に、掃除や農作業、そして稽古にかけての全てが新しい経験と価値観で溢れていました。

現代ではインターネットなどで様々な情報や知識を短時間で得られます。一方で研修所では、自分の目で見て考えて、少しずつ少しずつ自分の糧にしていくような感覚でしょうか。

生活の中でも稽古でもその経験の一つ一つが小さい大きなにかかわらず、答えを出すのに苦労したり大変な思いをすることも多いでしょう。けれど、それが本当の意味での自分の糧となるのだと思っています。だから、紆余曲折しても諦めずに前を向いて欲しいと思いますし、それを支えられるような存在に私自身もなりたいと思っています。

ここでの2年間を、一生懸命に過ごせたなら、その経験や仲間達は、長い人生の中でかけがえの無いものになるはずです。



- 鼓童メンバー講師：** [太鼓、唄、踊り、笛、邦楽器類、外部講師の稽古立会い 等]
藤本吉利、小島千絵子、藤本容子、山口幹文、齊藤栄一、見留知弘、宮崎正美、阿部好江、小松崎正吾、地代純、三浦友恵
- スタッフ講師 (主な担当)：** 赤澤京(農作業・祭り稽古立会い・生活面全般)、石原泰彦(農作業・剣舞・生活面全般)
大井キヨ子(小木おけさ踊り・裁縫)、後藤美奈子(俳句立会い)、菅野敦司(自由研究・鼓童の話)
高津万理(料理・茶道立会い)、本間康子(サンバ打楽器・能楽立会い)

鼓童文化財団研修所 ご支援のお願い

太鼓芸能集団「鼓童」の舞台を花にたとえれば、研修所はベースとなる土を耕し、根を育む活動にあたります。鼓童は財団を設立して以来、研修所を公益的な活動と位置づけて運営してまいりました。演奏の技術はもとより、その人間性すべてが舞台上にそのまま表れるとの考えから「くらす・まなぶ・つくる」を柱に、まず何よりも生き方を磨くことに重きを置いております。

ぜひ、夢に向かう研修生の思いを支えていただけませんか。皆様のご理解とご協力をいただければ幸いです。

なお、お寄せいただいた支援金は、公益財団法人への寄付金として、所得税(お住まいの自治体によっては住民税も)の優遇措置の対象となります。

研修生育成支援

1 研修所設備補修、研修生育成支援

1996年に旧岩首中学校の校舎跡をお借りして開所し、研修生の学び舎、そして生活の場でもある「柿野浦研修所」。築70年を越えて老朽化した建物は補修の必要があり、また研修所の運営にも年間約3,000万円の費用がかかります。

皆様より引き続き「研修生育成支援」にご協力いただけますようお願い申し上げます。

ご送金先

[郵便振替] 加入者名：公益財団法人鼓童文化財団

口座番号：00690-9-25829

「研修生育成支援」と明記の上ご送金ください。

[インターネット]

鼓童サイト「ご支援お申込みフォーム」ではクレジットカードをご利用いただけます。

銀行振込、郵便振替をご希望の方には、メールで口座情報をお知らせいたします。

www.kodo.or.jp/total_support

またはQRコードよりアクセスをお願いいたします。



1口1,000円より、任意の金額をお選びください。

3 物による支援(インカインド)

鼓童では、物品等のご提供によるご支援も承っております。

ご支援をいただける方は、ぜひ鼓童文化財団までご連絡をいただけますようお願いいたします。

※②、③は税制上の優遇措置はございません。

■ 税制上の優遇措置について

当財団への寄付金や「鼓童の会」の会費は、特定公益増進法人への支援金として、確定申告により所得税等の優遇措置の対象となります。寄付額の最大40%が税金から控除されます。新潟県内にお住まいの方は、個人住民税(個人県民税)の税額控除を受けることができます。他の地域の方は、お住まいの都道府県、市町村の税務課へお尋ねください。

■ 鼓童サイトにご支援いただいた皆様のお名前を掲載いたします。

研修生育成支援等のご寄付をいただいた方のお名前を、2021年から引き続き「鼓童創立40周年記念ロゴ」の中に並べる形で掲載いたします。

www.kodo.or.jp/total_support/our-supporters

○ 寄付お申し込みフォーム

「鼓童サイトへのお名前掲載について」の項目で「承諾する」をお選びください。

○ 郵便振替用紙(郵便局備え付けの用紙をご利用ください)

通信欄に「鼓童サイトへ掲載を希望」とお書き添えください。

※10口以上の方は、来年発行の「年次報告書」へのご名義掲載についても、希望の有無をお選びください。

2 鼓童×きしゃぼん

「どんどこりサイクル募金プロジェクト」



鼓童文化財団は「リサイクル募金きしゃぼん」の協働パートナーです。「きしゃぼん」は、ご自宅に眠っている本・DVDなどをリサイクル換金し、指定の団体(協働パートナー)に寄付する仕組みです。当プロジェクトを通じていただくご寄付は、研修生の支援に使わせていただきます。

皆様からのご寄付により研修生の稽古用のパチ材に換算して、これまでに800組以上を購入することができました!

(2015年より開始。2021年は1年間で411,215円、今年9月までで20万円を超えるご支援をいただきました)



[お問い合わせ] きしゃぼん(運営:嵯峨野株式会社)

フリーダイヤル 0120-29-7000

平日9:00~18:00

URL: kishapon.com/kodo/



鼓童創立40周年

研修生募集

鼓童では次代を担う研修生を募集しています。2023年度研修生の募集は11月25日まで。あなたの可能性を試してみませんか。 www.kodo.or.jp/apr